

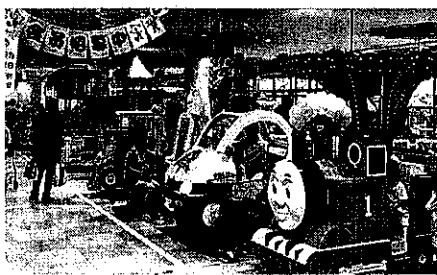
ムの効率化を共同で進める。ロシア政府は今後数年で3兆円超を投じ、老朽化した電力インフラを更新する計画。日立は提携を通じて更新需要を取り込むほか、そのノウハウを他の新興国が手掛ける電力インフラ整備プロジェクトに生かす。

同公社が持つ変電所に日立の電力制御システムを設置。送電線には遠隔監視装置を導入するなどして、送電の効率化に向けた技術検証や実証試験を実施する。日立は海外で発電プラントの受注実績はあるが、国全体の送電設備の更新で技術協力するのは初めて。

公社はスマートグリッド

ド(次世代送電網)の導入も検討している。日立は既存の発電プラントと、再生可能エネルギーを活用してつくった電気の双方を効率的に送電する仕組みづくりでも協力する。スマートグリッドに必要な蓄電池や電気自動車分野などでも共同研究を進める。

同公社は2002年の



イオンファントジーは3年後に中国で100店舗体制を目指す(北京市)

複数の民間発電会社がつくる電気をロシア全土に3兆円超の資金を投じ、膨らむとみられる。

帝人、中国に開発拠点

20億円投資 現地合繊などと連携

帝人は18日、中国に衣料繊維の開発拠点を新設すると発表した。投資額は20億円で、2013年4月に操業を始める。衣料品の需要が拡大している中国では今後、素材の高機能化が進むと判断。現地の合繊メーカーなどと連携し、市場ニーズに合った素材を開発する。

同社の衣料繊維開発の海外拠点は初めて。江蘇省南通市にある同社の織布・染色工場の敷地内に商品開発センターを建設する。現地で技術者を雇

い、保温性や吸湿性が高い衣料用ポリエステル糸や生地を開発。現地の合繊メーカーに生産方法を指導するなどして商品化につなげる。

将来は炭素繊維など自動車向け素材の開発拠点

カネカ、マレーシア生産

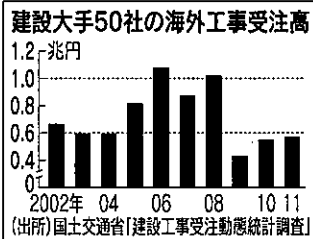
電子基板材料 80億円投じ新工場

カネカは18日、電子機器用プリント基板の材料であるポリイミド(Polyimide)フィルムをマレーシアで生産すると発表した。2016年度までに80億円を投じ、全体の生産能力

を2割以上引き上げる。日・米・アジア3極の生産体制を構築し、スマートフォン(高機能携帯電話)向けなどに需要が拡大するPFIフィルムでトップシェアを維持する。

既存拠点のカネカマレーシア(パハン州)の敷地内にPFIフィルムの製造会社「カネカ・アヒカル・マレーシア」を設立。建屋を設け、ポリイミド樹脂の合成設備やフィルム加工ラインなどを導入。年間生産能力を13年までに約6000ト増やし、2割増の3200トにする。

建設、新興国で活路探る



建設大手4社の新興国での最近の動き

大成建	ベトナムで空港施設の工事を受注
大林組	台湾で大型多目的ドーム球場の工事を受注
清水建	シンガポールに海外企業案件の専門部署を設置
鹿島	インドに現地法人を開設

の工事に着手した。受注額は約200億円。清水建や大林組は売上高の海外比率を現在の1割から2割に高める計画だ。

復興需要一巡後に備え

人手不足による労務費高騰などで12年3月期の完成工事総利益率は清水建と大成建で悪化したとみられる。復興需要が期待ほどの収益拡大につながるかどうかは不透明だ。加えて製造業が円高で海外進出を加速すれば、国内建設投資は一段と目減りする。大手の首脳は「日本企業が海外に成長を求めざるを得ない」との見解を示している。

清水・大林組、海外売上高比率2割に

